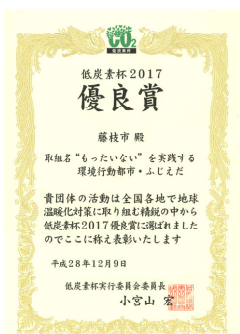


未来に輝く 持続可能な環境行動都市・ふじえだ

藤枝市では、未来に輝く「環境日本一のまち」を目指しています。
全国にも誇れる本市の取組の一部を紹介します。

市の取組が全国に認められる！ 「低炭素杯 2017」で優良賞を受賞

2016（平成 28）年、全国で取り組む地球温暖化防止活動を表彰する「低炭素杯」で、エントリーした 951 団体の中から、本市の取組「もったいない」を実践する環境行動都市・ふじえだ」が、優良賞を受賞しました。



県内初の認証！ 「エコ通勤優良事業所」

市役所職員の通勤手段を車以外の手段に転換する「エコ通勤」の取組が評価され、国土交通省などで構成される公共交通利用推進等マネジメント協議会より、「エコ通勤優良事業所」として県内の自治体では初の認証を受けました。



市役所で「エコアクション 21」の認証を取得 事業者への普及も全力で支援

本市では、事業活動の環境負荷軽減のため、病院及び指定管理者施設を除く全ての市有施設を対象として、環境省の策定した環境マネジメントシステム「エコアクション 21」の認証を取得しました。また、市内の事業者にもエコアクションを普及するため、登録料全額・2 回目以降更新料半額補助など、全国初となる様々な支援を行っています。



市有施設における エネルギー管理の強化

市有施設の設備改修だけでなく、更新済みの機器に対する EMS 等を活用した運用改善を受ける「エコチューニング」を積極的に推進し、全国的にも注目・評価されています。



持続可能性にも配慮した 環境活動の推進

市有施設への再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入などによる災害への強靭性を高める取組、また、テレワークやリモート会議などによる感染症拡大に考慮した働き方などの導入を推進しています。



全国的にも珍しい 生ごみ資源化事業

2011（平成 23）年度より家庭の燃やすごみの削減と生ごみのリサイクルのために、生ごみの分別収集及び堆肥化を開始しました。2020（令和 2）年 4 月時点で市内の約 18,000 世帯を対象に分別収集を実施しています。

また、現在、浄化センターでは下水汚泥への混入処理も研究しています。



“もったいない”でつくる持続可能なまち

「もったいない」は、古くから日本人が行ってきた環境を大事にする行動です。本市では、「もったいない」をキーワードに持続可能なまちづくりを行っています。

「もったいない都市宣言」と「もったいない運動推進計画」

本市では、2006(平成18)年11月に「藤枝市もったいない運動推進計画」を策定し、2009(平成21)年12月20日には「もったいない都市宣言」を行うなど、「もったいない」を合言葉にしたあらゆる取組を推進しています。



【もったいない都市宣言】

- ★先人の知恵である「もったいない」の精神に学び、無駄のない暮らしを実現します
- ★「もったいない」を合言葉に、ごみを減らし、エネルギーを節約し、低炭素社会の実現を目指します
- ★毎日の生活が地球環境に影響を及ぼしていることを認識し、地球市民として行動します

飲料の自動販売機の売り上げの一部を環境保全に活用

飲料メーカーと自動販売機設置事業者の協力により、「もったいない運動推進募金自動販売機」を設置しています。この自動販売機の売り上げの一部を「藤枝市もったいない運動推進募金」として募金し、藤枝市の環境保全に協力していただいています。



「もったいない」市民のつどいを毎年開催

毎年開催している「もったいない」市民のつどいでは、小学生のポスターやグリーンカーテンの表彰、高校生によるハワイ研修発表、食品ロスを経験した映画上映などを行っています。



「藤枝もったいない倶楽部」及び環境活動支援制度を創設

「もったいない運動」を市内へ広げていくため、企業やNPO、市民団体、市民の皆さんに登録をしていただき、環境に関する情報提供・情報交換を行う「藤枝もったいない倶楽部」や、環境活動の実施に必要な経費を支援する「藤枝もったいない倶楽部環境活動支援制度」を創設しています。



「わが家の節電“もったいない”キャンペーン」の実施

市民・事業者・行政が一丸となり、「オール藤枝」で地球温暖化対策に取り組むため、「節電アクションキャンペーン」を実施し、地球温暖化防止行動の習慣化、資源節約型のライフスタイル定着に向けて取組を推進しています。



環境行動日本一を目指す人づくり

こどもから大人まで“もったいない”を実践できる人を育てています。
藤枝市独自ともいえる「人づくり」の取組を紹介します。

こどもたちの環境教育・環境学習の実践

小中学校の環境教育のサポートを目的とした講師派遣・学習教材の提供、放課後児童クラブに環境学習への導入を目的とした出前講座を実施しています。



地域の環境のプロフェッショナル「エコマイスター」の育成

地域の中で環境意識の向上・啓発・指導ができる人材となる市民を育成する「エコマイスター育成事業」を実施しており、2019（令和元）年度までに74人を認定しています。

「My COOL CHOICE in ふじえだ」キャンペーンの実施

本市は、環境省が推進する地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE（クールチョイス）」に賛同しています。そこで、市長による「COOL CHOICE 宣言」を行うとともに、市民の様々な取組を紹介するプロモーション動画の配信や環境教材の配布などのキャンペーンを実施しています。



市が静岡産業大学の冠講座を開学

静岡産業大学経営学部の冠講座において、市職員による環境についての講座を実施しています。

「まち美化里親制度」への市民参加

市民や事業者などが「里親」となり、公園・道路・河川などを「養子」に見立て、清掃・美化をしていく「まち美化里親制度」を実施しています。2019（令和元）年度までに62団体が参加しています。

実体験を通じて環境について楽しく学ぶ「親子環境ツアー」の実施

夏休みの小学生とその保護者を対象に、市内の環境に関連する施設をめぐり、工場見学や環境講座、クイズなどの体験を通じて、環境について楽しく学ぶ「親子環境ツアー」を実施しています。



「ふじえだ環境マイレージ」のポイント制度

環境にやさしいライフスタイルの定着を目指した「ふじえだ環境マイレージ」を実施しており、ポイントを貯めると、協力店で様々なサービスを受けることができます。



次世代環境リーダーの任命とアメリカ・ハワイ州での研修

毎年、環境論文コンテストで優秀作品に選ばれた高校生を「次世代環境リーダー」に任命し、さらにアメリカのハワイ州で先進的な環境政策について研修を行っています。



2050 年度に向けた取組のはじまり

第 3 次藤枝市環境基本計画は、2050（令和 32）年度に向けた新たな取組のはじまりです。
困難な課題の解決に向け、「オール藤枝」で取り組みます。

市民・事業者・行政の協働により 「藤枝版地域循環共生圏」を形成します

環境省では、各地域の資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の活力が最大限に発揮される「地域循環共生圏」という考え方が提唱されています。本市でも、市民・事業者・行政が協働により脱炭素・循環型・自然共生社会を目指すことにより、「藤枝版地域循環共生圏」を形成していきます。【⇒P.30 参照】



脱炭素社会に向け ゼロカーボンシティを目指します

本市では、脱炭素社会に向けて、2050（令和 32）年度までに温室効果ガス排出実質ゼロに取り組む「ゼロカーボンシティ」の表明を行い、「藤枝市地球温暖化対策地方公共団体実行計画（区域施策編）」に基づいた地球温暖化対策を着実に推進していきます。【⇒P.58～59 参照】

SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴールと連携します

環境基本計画に掲げている取組は、SDGs の 17 のゴールと対応させて推進していくことにより、2030（令和 12）年度に向けて本市の取組を広く発信します。

【⇒P.34～35、70 参照】

4 質の高い教育と学び続けられる環境をつくる	6 安全・安心な水を提供する	7 クリーンエネルギーの活用を推進する	10 多文化共生のまちをつくる	11 災害に強く快適な居住環境をつくる
12 6Rを推進し、廃棄物を削減する	13 地球温暖化対策を推進する	14 河川の水質向上と廃プラ対策を推進する	15 豊かな自然を守り共生するまちをつくる	17 あらゆる主体が協働・協業するまちをつくる

気候変動への適応を進めます

近年の猛暑や集中豪雨などの気候変動に対応するため、農林業、水環境・水資源、自然生態系、自然災害、健康、産業・経済活動、都市生活などにおける適応策をまとめた「藤枝市地域気候変動適応計画」を策定し、推進していきます。



【⇒P.60～64 参照】

静岡県環境衛生科学研究所と 連携した取組を展開します

環境と保健衛生の科学的・技術的中核機関である静岡県環境衛生科学研究所が 2020（令和 2）年度から藤枝市に移転したことから、今後は同研究所と連携した取組を展開し、本市の環境保全の取組をより一層、科学的・技術的に高めていきます。【⇒P.36、64 参照】

廃プラ・食品ロス対策に取り組みます

本市では、市民・事業者・行政などで組織する官民協働廃プラ・食品ロス対策会議を立ち上げ、河川ごみ対策や環境人材をつくる親子 3R 体験など、廃プラや食品ロス対策を展開していきます。【⇒P.31、40 参照】



（仮称）クリーンセンターを 6R の拠点として活用します

志太広域事務組合では、（仮称）クリーンセンターの整備を進めています。供用後は、地球温暖化抑止や循環型社会の形成に資する施設とするとともに、環境学習や情報発信の場として活用し、地域共生型の施設を目指していきます。【⇒P.40 参照】